

読書

「岐阜県災異誌」は、
 県内の災害の記録を岐阜
 地方気象台が年代順にま
 とめたものである。

豊かな自然の恩恵を受
 ける岐阜県だが、同時に
 実にさまざまな自然災害
 が起きてきた。特に木曾、
 長良、揖斐の大河川が流

「大小の諸川悉くこと

ごとく漲溢(ちようい
 つ)し、堤防至る所に決
 壊し…惨害の激甚なりし

こと記するに堪へず(七
 月)「豪雨あり。各川出
 水せり。…十一日また暴
 風雨あり。焚出(たきた
 し)救助を要せしもの二

県図書館に行こう

こんな情報^①が待っている。

れる美濃平野は水害との
 闘いの歴史。川は氾濫(は
 んらん)を繰り返し人々
 を苦しめてきた。

例えば本書で一八九六
 (明治二十九)年の項を
 見る。七月から九月まで

相次いで洪水があり、大
 きな被害を出した年だ。
 郡前渡村(現各務原市)
 以西流路を変じた。現本

十七万人に達せりと云
 う。(九月)

また、戦国時代に河道
 の変化が国境にも影響を
 与えた興味深い記述も見
 られる。

「木曾川大洪水。各務
 郡前渡村(現各務原市)
 以西流路を変じた。現本

岐阜県災異誌 災害との闘いの記録

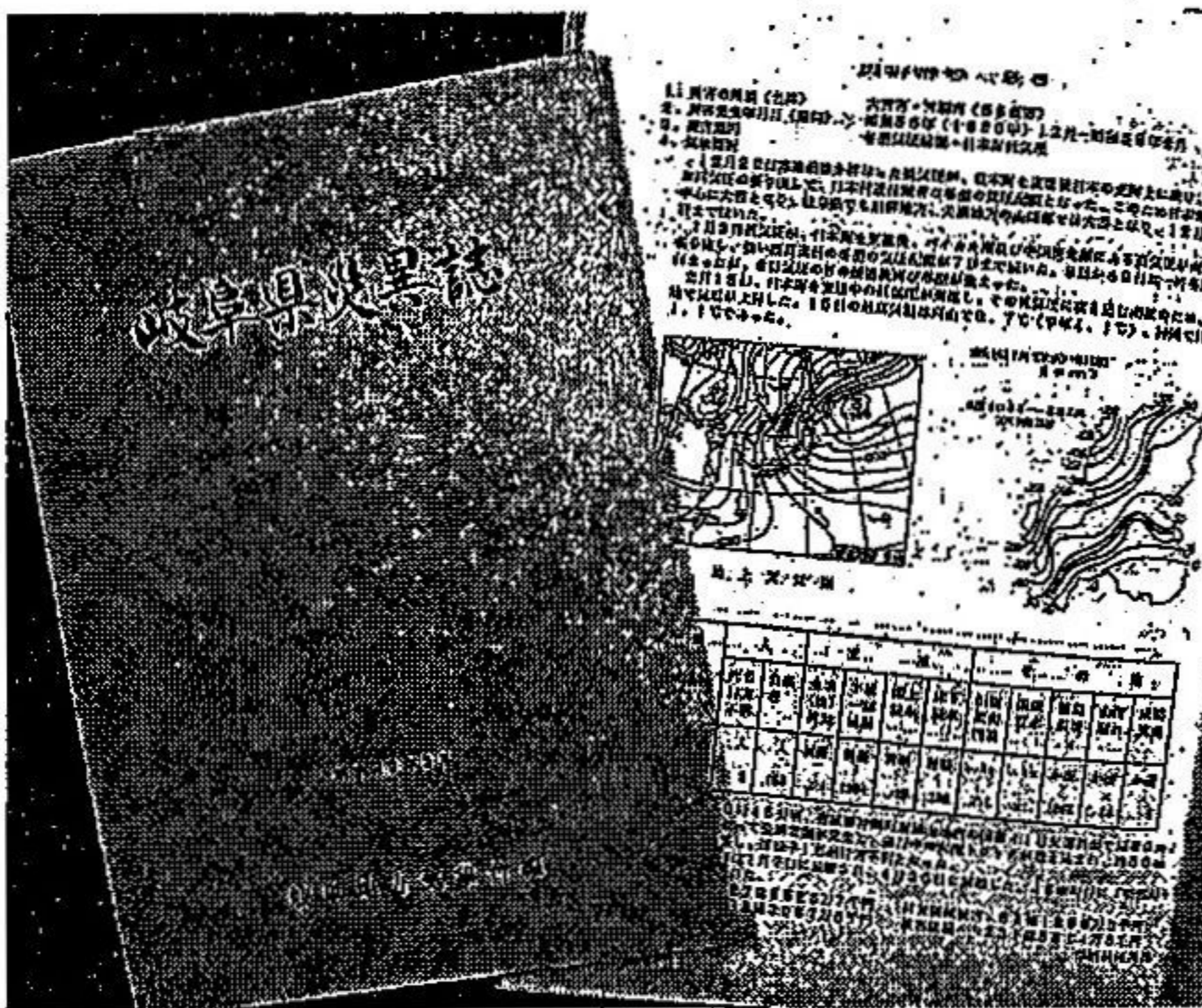
曾川を生じ、流亡した村
 落多い…この洪水後の木
 曾川筋を以つて濃尾両国
 の境とした(一五八六
 年)天正十四(一五八六)年
 の記録中の最深積雪分

水害、風水害のほかで
 は大雪被害も多い。「5
 6豪雪」として記憶され
 る一九八一(昭和五十六)
 年の記録中の最深積雪分
 布図を見ると、白川村の
 一部で四五〇センチに達して
 いる。これは昨年十二月
 の同村の最深積雪が二六
 〇センチであったことか
 ら考えても、驚くべき数
 字である。

同誌は、第一編と第二
 編から成る。二冊を合わ
 せると六四九(大化五)

年から一九九二(平成四)
 年までを収録する。年表
 の部では、災害の種類、
 年月日、原因、被害の程
 度などを掲載する。

図表の部は、災害によ
 り天気図、台風の経路図、
 雨量分布図、降水量分布
 図などを一目で分かるよ
 うに配置。一八九一年の
 濃尾地震の根尾断層や一
 九六〇年八月の長良川決
 壊現場の写真なども収め
 ている。



「岐阜県災異誌」第一編(左)と、第二編の「56
 豪雪」時の天気図が掲載されたページ

BOOK REVIEW